

## ◆ 巻頭言

## フェアトレードで支える、女性の経済的自立への道

スベンドリニ・カクチ

来日30年、国際的に日本のニュースを配信する(株)インタープレスサービス (IPS) の特派員をしている。IPSは1960年代にイタリア人が創設したメディアで、「ニュースは誰にでも平等に」をコンセプトに、政府見解や企業の発表だけではなく、多様な声を届けることをめざしている。取材は、欧米的物差しの白人男性記者だけでなく、アジア人女性の視点が入ることが重要である。3.11以降、現地で被災者の人たちと一緒に過ごしていると、女性たちの意見がきちんと聞こえてきた。

東北の女性たちは我慢強く、意見や要求など発しないイメージだが、反原発運動のリーダーは女性たちだし、アイデアを出しながら活動する多くの女性たちが見えてくる。彼女たちの復興には持続可能な支援が必要で、経営力をつけることが真の経済的自立につながると思う。

私は、スリランカと日本の女性たちをつなぐフェアトレードを軌道に乗せようと、スリランカ北部(トリンコマリ)に、内戦と津波(2004.12.26)ですべてを失った女性たちのための裁縫センターを作った(2009年までに2ヵ所)。スリランカ南部はヨーロッパから観光客が訪れる豊かな地域だが、北部は長く続いた内戦で貧しく、津波被災への支援は届きにくく復興は遅れている。20歳代~30歳代の仕事のない女性たちに裁縫をトレーニングし、今ではハンドメイドの刺繍をデザインしたショールやバッグ、ハンカチを商品として生産するまでに成長している。

次のステップは、女性たち自身が運営していけるように意識改革と経営ノウハウの習得である。裁縫センターを運営する力を養成するためにワークショップを開く中で、日本からも大島かおりさんと深澤純子さん\*がゲストとして参加してくれた。近い将来、社会的投資家(ソーシャル・インベスター)を募り、会社組織にしていくつもりだ。

私たちは日々買い物をする。全部でなくていい。「世界をよくしたい」というポリシーをもってフェアトレードを選択してほしい。それは、東日本大震災被災地とフクシマの女性たちを世界とつなぐことである。

\*大島かおりさん(本誌2011年11、12月合併号巻頭言執筆者)、深澤純子さん(同2012年1月号、2月号、4月号 Women's ART執筆者)



## PROFILE

スベンドリニ・カクチ  
(Suvendrini Kakuchi)

(株)インタープレスサービス特派員。スリランカ出身。最初は、上智大学に交換留学生として来日。その後、スリランカでジャーナリストを経て、再来日。IPSのアジア人記者として日本のニュースを配信するかたわら、スリランカの女性たちの就業支援とフェアトレードを手がける。「あなたにもできる災害ボランティア」岩波ジュニア新書、2005年。

<http://pompontea.com/top.html> (スリランカ産物のフェアトレード)  
<http://www.ips.org/blog/mdg3> (IPS記者のブログ「ジェンダーマサラ」)